

創立 89 年 広島国際学院 報

建学の精神

第 102 号

平成 29 年 1 月 1 日発行



特集 国際交流

インド・早川日本語学校&文化センターの皆様と、研修のため訪れた本大学学生たち

目次

特集 国際交流	1・2
努力が生む喜び、体験で培う力 工学部	3
研究を生かして地域に活力を 情報文化学部	4
地域の自然、歴史と文化に親しむ 総合教育センター	5
整備の現場を学び、未来を拓く 短期大学部	6
高校から発信	7・8
第 49 回高城祭	9
「苦しみを笑いにかけた野球人生」 達川光男氏講演会	9
世界のトップ選手と輝きたい！ プロゴルファーの夢へ踏み出す	10
入賞おめでとう！岩手国体	10
硬式野球部 3 年間の思い	10
学生の地域貢献活動	11

高校から発信

整備の現場を学び、未来を拓く

短期大学部

地域の自然、歴史と文化に親しむ

総合教育センター

研究を活かして地域に活力を

情報文化学部

努力が生む喜び、体験で培う力

工学部

特集 国際交流

英語レッスン & 文化交流体験研修旅行 ～インド・チェンナイ～



英語でのプレゼンテーション原稿をチェックしてもらう学生

11月29日から12月6日まで、インド・チェンナイにある早川日本語学校 & 文化センターへ学生6名、引率教員1名（岡川卓詩情報デザイン学科講師）、合計7名で研修旅行に行きました。

チェンナイはインド4大都市の一つです。南インドにあるタミルナドゥ州の州都で、政治・経済活動の中心地になっています。早川日本語学校 & 文化センター（Hayakawa Japanese Language School & Cultural Center）は、2016年5月17日に本大学と提携校の関係を結びました。現在、大学院修士過程1名、研究生1名、計2名の留学生在籍しています。

研修旅行ではセンディル校長先生、清水有子先生をはじめ、たくさんのスタッフの方々にお世話になりました。滞在中はみなさんの細かいお気遣いのおかげで、学生全員が元気に過ごすことができました。

英語レッスン「日本」を英語だけでプレゼンテーション

今回の研修旅行のメインイベントの一つは、英語レッスンの成果発表でした。日本の文化を早川日本語学校の生徒のみなさんに英語だけで発表します。2日間あった英語レッスンでは、プレゼンテーションする内容を先生にアドバイスやチェックしていただき、正しい英文にしていきました。

成果発表当日は、30名以上の生徒のみなさんに集っていただきました。みんななかなか触れることができない日本人が紹介する日本に興味津々のようでした。トップバッターの松本翔太郎さん（食農バイオ・リサイクル学科3年・安佐北高校出身）は「日本のアニメ」をテ

マに発表をしました。紹介したアニメはインドでも有名で、ほとんどの人が知っていました。ジャパニーズアニメのすごさを改めて感じました。続いて内藤泰雅さん（情報デザイン学科3年・安古市高校出身）は、実際にペンタブレットを使用して、パソコンでイラストを描き、みんな興味深く観ていました。壇上礼都さん（食農バイオ・リサイクル学科3年・師友塾高校出身）は「神楽」について発表しました。日本の伝統的な衣装、踊り、音楽に釘付けでした。金山翔さん（大学院工学研究科1年・三次清陵高校出身）は日本のラーメンについてプレゼンテーションをしました。チェンナイには1軒しかラーメン店がないため、ラーメンにたくさんの種類があることに驚いていました。最後にいずれも食農バイオ・リサイクル学科3年の末政伶旺さん（武田高校出身）と森川涼子さん（広島桜が丘高校出身）が、お好み焼きの作り方を実際に調理しながら発表しました。なかなか見ることがないお好み焼き作りの実演に教室全体が盛り上がりました。一部の材料はチェンナイで清水先生に用意していただきましたが、日本で作ったように美味しくでき、何度もおかわりをする生徒もいました。

たくさんの人の前で、英語で堂々とプレゼンテーションができました。聴いていたみなさんにも、楽しみながら様々な日本文化を知ってもらえたと思います。清水先生からもすべて英語で発表できたことを自信にしてほしいとの言葉いただきました。



お好み焼き作りを実演しながら英語で発表

出会いと感動の文化交流体験

チェンナイはインドの中でも長い歴史を誇るところでもあります。普通の観光客は入れないチェンナイ最古の



世界遺産「マハーバリプラム」の遺跡群を見学

ヒンドゥー寺院「パルタサラティ寺院」を見学できました。神々しさに圧倒されましたが、時間とともに心地よさを感じ魅了されていきました。世界遺産でもある「マハーバリプラム」は日本の建造物にはない遺跡群にみんな感動しました。巨大な丸い岩が坂の途中で止まっているように見えるクリシュナのバターボールは、魅力的なインドを象徴しているようでした。

インド映画は映画制作本数、観客総数も世界一多い映画大国です。チェンナイも「コリウッド」と呼ばれる映画の都の一面を持っています。大型ショッピングセンター内の映画館で鑑賞した映画はすべてタミル語でした

が、わかりやすいストーリーのため、飽きることはありませんでした。上映中に掛け声があったり、途中休憩があったりと日本の映画館との違いに驚きました。

上映後は8名の生徒さんと買い物に出かけ、ショッピングを通して日本語と英語を交えながら交流を楽しみました。学生たちも日本では見かけることがない商品に質問をして、インドの日常生活や文化に触れることができました。最後にはSNSなどの連絡先も交換しました。今後もこの関係がつながることに期待しています。

研修旅行を終えて

7日間と短い期間でしたが、ここでも紹介できなかった伝統的な南インド料理、本場のヨガなどたくさんの体験をした中身の濃い旅行になりました。道路に牛が歩いているなど、価値観が変わるような経験をするのができたと思います。日本より不自由なことも多いですが、清水先生も最後に「不自由を楽しめるようになるといいです」とおっしゃっていました。改めて自分を見つめ直し、学生を成長させてくれる旅行になったと思います。

最後に学生へ援助を下さった(有)名水バイオ研究所の佐々木健前学長をはじめ、先生方、関係各位の皆様には、この場をお借りして深くお礼申し上げます。

海外日本語教師養成研修訪問

11月4日、ひろしま国際センターが実施する広島県海外日本語教師養成研修で来日されている研修員の皆さん(中国人3名、ベトナム人3名)が、研修の一環として本大学を訪問されました。

最初に、李木学長の挨拶の後、酒井工学部長と伏見情報文化学部長からは、各学部の教育内容等について、鎌倉事務部長からは、留学生受入れ状況や留学生向けの入試・奨学金制度について、それぞれ説明を行いました。

その後の研修員の皆さんとの情報交換では、本大学における留学環境や研修員所属大学との学生交流などについて話をすることができ、大変有意義な情報交換となりました。

引き続き、大学施設や授業の見学を行いました。大学施設では食堂や図書館や実習室等、学生が日頃の勉強・大学生活において利用する施設を紹介しました。情報デザイン学科の学生がデザインをした商品のパッケージ等を見学され、大変興味を持たれていました。

最後には、本大学の留学生(中国人留学生2名、ベトナム人留学生2名)との意見交換会も行いました。研修



学生がデザインしたワインラベルを見る研修員

員の皆さんからは、学習状況や大学生活について質問があり、留学生は、大学に入学して大変だったことや楽しいことなど答え、とても話が盛り上がっていました。

本大学訪問の最後には、研修員や留学生の皆さん、李木学長ほか本大学関係者で記念撮影を行いました。研修員の皆さんからは、「実際に自分の目で見て、話を聞いたので、帰国後も自信を持って、同僚や学生に広島国際学院大学のことを伝えることができる」との感想をいただきました。

CAD 利用技術者試験 2 級に合格

生産工学科では学生に各種資格試験の取得を勧めています。CAD 利用技術者試験もその一つで、試験は年に 2 回行っています。

今年度は 11 月 13 日に後期試験を行い、5 名の学生が合格しました。

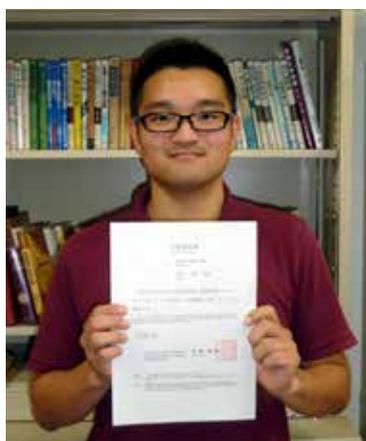
後期の授業開始に合わせて受験対策講座を毎週行いました。試験が近くなると連日遅くまで残って試験勉強を行いました。

合格者の皆さんおめでとう。次のレベルの試験を目指して引き続き勉強しましょう。残念ながら不合格だった皆さんはまた次回頑張りましょう。



CAD 試験合格を喜ぶ学生たち

広島大学大学院に合格 —生産工学科・谷岡さん—



広島大学工学研究科に合格した谷岡さん

生産工学科の 4 年生、谷岡佳紀さん（広島国際学院高校出身）が、広島大学 大学院工学研究科 システムサイバネティクス専攻に合格しました。

谷岡さんは本大学の工学部 生産工学科において電気工学コースの授業を学んでゆく中で電力分野に特に興味を持ち、就職を見据え日々コツコツ勉学に励んでいました。そんな折、2 年前に本大学を卒業し、広島大学 大学院へ入学した研究室の先輩の話を聞く機会があり、そこで自分の極めたい分野でさらに高度な知識を身につける事ができることを知り、広島大学大学院を目指そうと決意しました。その後は日々の勉強に加え、さらに大学院入試に向けた勉強を行うというハードスケジュールをこなし、一般試験を合格することができました。

合格した際には、「大学院に合格してホッとしています。これまで勉強してきた事を無駄にせず、大学院でしっかり研究に励みたいと思います」と述べていました。また、大学院入試の勉強の際に、忙しい中快く相談に応じてくださった、本大学の専門分野、数学、英語の先生方に大変感謝しているということでした。今後の活躍に期待しています。

努力が生む喜び、
体験で培う力

PICK UP!

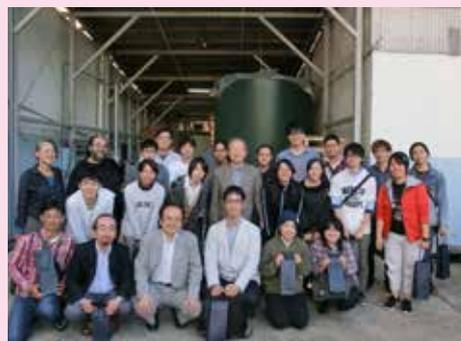
食農体験塾で酒蔵見学

ができました。授業だけでは得られない貴重な体験も聞くことができ、歴史についての話と酔心山根本店の歴史についても聞き、三原地域の酒造りの歴史と酔心山根本店の歴史についての話も聞くことができ、授業だけでは得られない貴重な体験も聞くことができ、



杜氏から酒造りの技術などについて聞く学生

み水が重要なことと、使用する機械や発酵を管理する技術などについて説明を聞きました。酒造りの工程を見学した後、清酒の試飲を行い、米を削る割合や製造方法が異なる 6 種類を試飲し、色、香り、味の違いを体験しました。仕込み水が重要なことと、使用する機械や発酵を管理する技術などについて説明を聞きました。



「酔心山根本店」にて

今年度、食農体験塾は特別教育費をいただいで、全学の学生を対象にさまざまな体験学習を行っています。10 月 24 日には、2 ～ 4 年生の 18 名が三原市にある「酔心山根本店」の工場見学に行きました。麴室や仕込み

情報文化学部

安芸太田町井仁地区でボランティアとフィールドワーク

11月12日、1年生向けの初年次セミナーで「日本で最も美しい場所31選」に選ばれた棚田が広がる安芸太田町井仁地区を訪問し、ボランティアとフィールドワークを通じて中山間地の実態と課題について学びました。

バスで9時過ぎに現地に着。まず地区の歴史と現状についてご説明をいただき、次に水路清掃、草刈り、アジサイ畑の整備などのボランティア作業を行いました。学生たちは、ふだん使うことのない鍬や鎌、スコップ、熊手を手にみんなよく頑張りました。



水路清掃に汗を流す学生たち

新米の美味しいおにぎりや具だくさんの豚汁という昼食の後は、地区内をフィールドワークしながら、棚田や水路の仕組み、害獣駆除、魚の養殖などについて学びました。本当に貴重な経験となりました。井仁地区のみなさま、ありがとうございました。

研究を活かして地域に活力を

海田町日本語教室で外国人市民と交流

11月15日、地域国際化論の授業の一環として海田公民館の日本語教室を訪問しました。ここで学んでいるのは海田町やその近隣で働く外国人です。彼／彼女たちはベトナム、中国、フィリピン、ラオス、ペルーなどさまざまな国からやって来て、地域社会を支える存在です。

イメージだけで外国人をとらえがちな学生にとって、直接外国人と会って交流するという機会はとても有意義なものとなりました。



地域社会を支える外国人と日本語教室で交流

PICK UP!

横川ゾンビナイトに参加

情報デザイン学科有志が、10月29〜30日に開催されたハロウィンイベント「横川ゾンビナイト2」に参加しました。

総勢20名ほどの学生が参加し、HKGキャラクタープロジェクトによるゾンビパネルの出版、HKG声プロジェクトによるゾンビラジオ放送、定国研究室によるゾンビカメラおよびゾンビ感染証明書発行所、ゾンビナイトのウェブサイト制作、脱出系お化け屋敷ゾンゾンハウスの映像制作サポート、情報デザイン学科有志による横川ゾンビナイト運営ボランティア等で活躍しました。また、一部の学生たちは、初春のころ



ゾンビラジオ

からの打ち合わせからイベントに関わり、横川商店街や市役所、プロのデザイナーやアーティストと一緒に、イベント作りを体験しました。

情報デザイン学科では社会の現場を通じて、学生を成長させ地域に貢献する「いい顔をめざす」教育に取り組んでいます。今回のこのイベント参加を通じて、多くの学生が「いい顔」になり、さらに、地域の人々を「いい顔」にできたと感じています。



キャラゾンビ



ゾンビカメラ



西国街道の宿場町として栄えた海田市の説明を受ける

大学の前を流れる瀬野川に沿って、古くは律令時代（8世紀）に山陽道と呼ばれる京都から大宰府を結ぶ古代の幹線道路（大路）がありました。また大学の近くに、今でいう道の駅に相当する駅屋「大山」が9世紀までありました。この道路は大学の前を通っていて、江戸時代には西国街道、そして現在では安芸山陽道と呼ばれています。大学の前を通るJR山陽本線では、大学近くの中野東駅より一駅上った瀬野駅から八本松駅の区間は「瀬野八」と呼ぶ急勾配の難所で、現在でも長い貨物列車を押し補機が付いており、鉄道マニアが撮影に訪れています。この歴史と文化に囲まれた瀬野川流域を新入生に知ってもらう「せのがわ学」を、今年も10月に地域講師を招いて開催しました。

10月5日と12日には、『瀬野川の自然』と『海田町の歴史と文化』を行いました。『瀬野川の自然』では、生産工学科が雨のため室内でしたが、情報デザイン学科では学生が瀬野川沿いの「ほことり広場」に集まり、保光義文氏から瀬野川にいる動植物について説明を受けました。保光義文氏が川から採った虫や魚などを実際に見て、大学近くの自然を体感できたと思います。



JR山陽線の難所「瀬野八」で活躍した機関車

『海田町の歴史と文化』では地元のガイドボランティア団体「西国街道・海田市ガイドの会」による西国街道の宿場町だった海田市の説明がありました。講演内容は、参勤交代における西国街道と宿場町の役割、大名が宿泊した茶屋などを、海田市に未だ残る建物や史跡を当時のお話とともに紹介するものです。学生たちは大学の前の道が大名の参勤交代に使われていたことに驚き、地元地域の歴史についても興味を持ってくれたようです。

『瀬野の歴史と文化』（10月19日）では、瀬野川流域郷土史懇談会が西国街道の難所だった「大山峠」を中心に、前半で民放が放送した大山峠から中野砂走りの出迎いの松までを歩く番組をビデオで流し、後半では「みどり坂のスカイレールが日本で唯一のもの」といった内容を含めてパワーポイントによる解説がありました。『JR山陽本線の歴史と役割』（10月26日）では、学生は前半の1962年に電化される前の瀬野八を走る蒸気機関車三重連などを納めたビデオに圧倒され、後半の「鉄道村と呼ばれた瀬野」を中心とした歴史を聞きました。



大学そばの瀬野川で実際に採取した動植物を観察

地域の自然、歴史と文化に親しむ

新任挨拶

あんどう 安東 茂樹（総合教育センター教授）



私が生まれたのは兵庫県明石市で、通学した諸学校もこれまでの勤務先も関西圏でした。縁あって、平成28年11月1日付けで本学に勤務し、主として教職関係の役務に従事しています。学生の皆さんに教職の意義や素晴らしさを伝えたいと願っています。

短期大学部

2 級自動車整備士技術講習会 開講式

10月17日、今年度2級自動車整備士技術講習会の開講式を行いました。広島県自動車整備振興会の指導部長、学長、短期大学部長、教員の出席のもと開催しました。

まず広島県自動車整備振興会指導部長様から、最近の自動車業界を取り巻く状況や整備士の仕事の重要さ、学生に対しての将来への期待をお話いただきました。学長、短期大学部長からは、長い講習期間を乗り越え、全員合格出来るよう励ましのお話をされ、学生一同は、気持ちを新たに講習に臨む決意をしていました。

平成28年度は59名の学生が受講し、平成29年3月26日の登録試験を目指して、これから5ヶ月間、日々勉強に励みます。

受講学生は来年1月末までは週2回の講習を受け、2月から3月末の登録試験前日まではほぼ毎日講習、自主勉強となります。辛く厳しい日々となりますが、学生、教職員一体となり『国家試験全員合格』を目標に頑張っていきます。



開講式であいさつする知名短期大学部長

整備のプロを目指して 一日野自動車工場見学

9月9日、1年生81名が就職支援授業の一環として、広島日野自動車(株)の工場見学を行いました。A組・B組の2班に分かれ、講義と整備工場の見学を行いました。

講義では、最新鋭のトラック・バスの安全運転支援システム(例:運転手が体調不良の時、バスが自動で路肩に停止等)の紹介やパリダカールラリーの迫力あるレースのビデオ等を見ました。



トラック整備の様子を見学

また、工場見学ではトラックの整備の様子を詳しく説明していただき、また、約1,000kgのバスのエンジンのピストンやシリンダも見せていただきました。自家用車と違い、各部品がとても大きく迫力がありました。

最後に本社前でトラックと記念撮影をしました。

自動車整備士を目指す1年生にとって、普段の講義や実習と、実際の現場との関連性がより明確になった見学でした。

整備の現場を学び、
未来を拓く

PICK UP!

トヨタ九州・宮田工場を見学 ー平成28年度研修旅行ー

2日目は、ホテルを出発し大宰府天満宮に参詣。学問の神様に学業成就、2年生は来年3月の2級自動車整備士試験の合格を祈願して、お昼前にこの旅一番のお楽しみスペースワールドに到着、絶叫マシンなど楽しみました。学生の皆さんはこの2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。

工場見学後はマリンワールド海の中道で、イルカショー、パノラマ大水槽の中でダイバーが繰り広げるアクアライブショーやサメの大群などを鑑賞しました。

とり、トヨタ自動車九州(株)の宮田工場を訪問しました。ここでは主にレクサスとトヨタのハイブリッド車を生産していて、自然環境へ配慮した工場運営、パーソナルモビリティ「Winglet」の試乗会でトヨタの最新技術を学びました。



トヨタ自動車九州(株) 宮田工場にて

今年度の研修旅行は8月23〜24日に1泊2日の日程で北九州方面を旅しました。1日目は、壇ノ浦パーキングで関門海峡を眺めながら昼食をとりました。

修学旅行

グアム

総合学科2年4組 廣政 順平（古田中学校出身）

4泊5日でグアムに行きました。初日は新幹線で広島を出発、関西空港から飛行機でグアムに向かいました。



現地高校生と交流

2日目は現地の高校生との交流でした。アメリカの人はテンションがすごく高いし、歌もダンスもとても上手でした。ホテルに帰るとみんな海とプールに直行していました。「マンタ」というアトラクションがとても面白かったです。ウォータースライダーや波のプールも楽しめました。3日目は観光地を回りました。一番印象深かったのは「恋人岬」です。高い所から見る広い海はきれいでもとても感動的でした。4日目は、マリンスポーツを楽しみました。憧れのジェットスキーに乗れてとてもうれしかったです。夜はバーベキューをおいしく食べました。またグアムに行きたいと思いました。

沖縄

普通科2年5組 後藤 陽菜（楠那中学校出身）

私は沖縄の文化や歴史を学びたいと思い、沖縄コースを選択しました。



首里城を見学

初日は糸数壕へ行きました。現地では「アブチラガマ」といい、戦時中に使われていたそうで、ガイドさんから当時の様子を聞かされ、とても恐ろしくなりました。次に沖縄平和記念公園に行き、平和祈念資料館を見学しました。2日目は首里城公園、お菓子御殿、古宇利オーシャンタワー、美ら海水族館に行き、3日目には青の洞窟スノーケル体験・琉球村・マリクラフトをしました。4日目、カヌー体験&マングローブ観察で沖縄の自然を味わい、フルーツランドにも行きました。最終日は道の駅「かでな」と国際通りに行きました。近くに基地があり、戦闘機も見えました。

修学旅行はとても忙しかったけれど、いろいろな場所で様々な文化に触れることができました。

台湾

普通科2年1組 谷 優里（賀茂川中学校出身）

私は、今すぐにも台湾に帰りたくらい台湾のことが大好きです。この5日間で私は、日本にない台湾の魅力を見ました。



太極拳を楽しむ

まず一つ目は伝統的な街並みです。「鳥来温泉街」や「士林夜市」「九份」は、日本でいうと商店街とお祭りの屋台を組み合わせたような雰囲気のある場所で、昔からあるような佇まいでした。

二つ目は、台湾の人たちです。英語で会話するのは難しかったけど、台湾の学生はとてもフレンドリーで、すぐお友達になりました。そして、日本人として忘れてはいけないのは「台湾は日本の味方」ということです。「広島」というものを背負っていった私たちの心に平和講習のお話はとても響きました。これからも毎日を大切に、平和を大切に暮らそうと思います。

北海道

普通科2年8組 福田 侑季乃（坂中学校出身）

私は北海道に行き、主に歴史を学びました。広島から見た北海道は未知の世界で、今回のたくさんの発見や新しい体験をしてとても楽しかったです。



新鮮な海産物が並ぶ市場

アイヌ民族博物館では、アイヌ文化が代々大切にされていることを知りました。昭和新山は昭和時代に噴火してできた山だと聞き、びっくりしました。地球岬では、地球の丸さがわかりました。あんなきれいな水平線は初めて見たのでとても感動しました。食べ物もとてもおいしかったです。じゃがバターにメロン、メロンのキャラメル、新鮮な魚を使った海鮮丼など、広島では味わえないものでとてもうれしくなりました。

また、北海道から持ち帰ったお土産が風邪です。修学旅行など非日常的な行事では、体調管理に気を付けたいと思いました。

オープンスクール

9月18～19日の両日、オープンスクールを開催しました。2日総計2,792名と過去最高の申込みがあり、準備にも熱が入りました。悪天候で開催が危ぶまれましたが、台風が逸れたため当日朝に実施を判断。交通の乱れで1日目の欠席者が多かったものの、2日総計2,628名の中学生、保護者が来校されました。

オープンスクールのコンセプトは「いかに本高校の雰囲気味わってもらえるか」。短時間の中で国際学院の雰囲気を感じとってもらうため、生徒が中心となり運営していきます。体育館における学校説明会での司会や説明、講座見学誘導、受付や昼食引き替えも全て生徒が

担当します。各日400名以上の生徒が普段の高校生活と同じ、飾り気のない姿を見せることに

よって、中学生に束の間の「国際生」

を体感してもらいました。アンケートでも「国際の楽しい雰囲気が伝わった」など高評価を多数いただくことができ、思い出に残るオープンスクールになったことと思います。



液体窒素を用いた理科実験



各クラスが練習の成果を存分に披露した合唱祭

20日は恒例の吹奏楽部、書道部、軽音楽部、そして、同好会となつて初めてのダンスの発表があり、いずれも日頃の練習の成果が十分に発揮されました。総合学科国際コ

第55回文化祭

11月19～20日、第55回文化祭を開催しました。今年度のテーマは「繋ぐ」。私立高校らしく、特色を引き継ぎ本校らしい文化祭にしようという思いが込められています。

19日に1学年の合唱祭が行われ、各クラス審査員の方々を感動させるくらいハイレベルな発表となりました。全クラスが聴衆に素晴らしいハイモニーを届けました。

20日は恒例の吹奏楽部、書道部、軽音楽部、そして、同好会となつて初めてのダンスの発表があり、いずれも日頃の練習の成果が十分に発揮されました。総合学科国際コ

展示の部では2学年の「繋ぐ」をテーマにした展示も各クラスで「国際学院」をアピールし、過去に類を見ないハイクオリティーな作品が審査員を悩ませました。例年通り各クラブ・委員会の展示も見ごたえあるものでした。

PTAのバザーをはじめ、クラブやクラスで行った模擬店は大盛況で、来場者も満足しているようでした。

本高校文化祭はまだまだ発展していきます。次回もぜひ足を運んでください。

感謝の気持ち — ドラゴンフライズ訪問 —

普通科1年2組 山本 竜大(海田中学校出身)



プロの選手からバスケットボールを学ぶ

先日、広島ドラゴンフライズの田中成也選手、小林大起選手が本校体育館に来ていただき、ご自身の貴重な時間を割いて、私たちにバスケを教えてくださいました。短い時間でしたが、いくつもの大事なことを学ぶことができました。

まずハンドリングやディフェンスなどの技術についてです。ハンドリングではドリブルのときの基本姿勢やボールをつく強さとコントロールなど基礎がどれだけ大事なのが分かりました。またディフェンスでも基礎で

あるスタンスや足の運び方が一番大切だと分かりました。

次に気持ちの持ち方です。練習時に集中するのはもちろん、ディフェンス練習ではオフェンスがディフェンスを育てる気持ちをもつなど、自分だけでなくチーム全体が強くなるにはどうすべきかを考えることがとても大切だと思いました。

今回学んだことをこれからの練習で生かし、仲間と切磋琢磨しながら、『県大会ベスト8』の目標を超えるように努力していきたいと思います。広島ドラゴンフライズの選手並びに関係者の皆様、本当にありがとうございました。

第49回高城祭「華火」を終えて

第49回高城祭実行委員会 委員長 山口 尚也(大学情報デザイン学科3年 五日市高校出身)

10月22日～23日に広島国際学院大学中野キャンパスにて、第49回高城祭、テーマ「華火」を開催しました。

22日は昨年同様、鼓天童子様による太鼓の演奏から始まりました。地元のかわいいゆるキャラたちがステージに登場してのゲーム、団結力と知性が問われるクイズ大会、定番企画であるビンゴ大会などが行われました。今年のビンゴ大会は景品数が昨年よりも多く、大変な盛り上がりを見せました。

23日は本大学吹奏楽部の演奏でスタートしました。また、ハロウィンが近いこともあり、ステージ上で仮装大会が開催されました。参加者は皆個性的な仮装ばかりで大変にぎわいました。そして15時から系列高校や地域のダンスサークルによるダンス、さらに16時から3時間、6組の豪華ゲストによるライブが行われました。最後に恒例の花火で今年の高城祭は終了しました。今年はテーマが「華火」ということもあり、質量ともに歴代最高の花火を打ち上げました。

来場者は22日が385名、23日が1,086名、総来場者数1,471名でした。22日は雨天が原因なのか、昨年より総来場者数は少なかったものの、23日の来場者数が1,000人を超えることができました。

自分が主として携わる高城祭が最高に終わってよかったです。地域の皆様や本大学の学生、教職員の皆様、関係企業、関係団体の皆様、そして高城祭に参加、来場して下さった皆様、本当にありがとうございました。来年の高城祭は第50回になるので、歴代最高の高城祭になるように願っています。



ハロウィンにちなみ、ゾンビの仮装をする参加者も



留学生のジンギスカン焼きも大好評



毎年人気のトンボ玉づくり

PICK UP!

「苦しみを笑いにかえた野球人生」

—達川光男氏講演会—

高城祭期間中の10月23日、元広島東洋カープ選手・監督で、現在は野球解説者の達川光男氏による講演会「苦しみを笑いにかえた野球人生」を開催しました。現役時代の功績もさることながら、独特な話術が魅力的な達川氏の講演とあって、会場には300人近い野球ファンが詰めかけ大盛況でした。

話題は本業の野球をはじめとして、家族、歴史、時事に至るまで多岐にわたりました。時に格言をちりばめた軽妙洒落なトークに、会場は幾度となく笑いと拍手に包まれました。講演後には熱心な女性ファンから豪華な花束が手渡される場面もありました。

9月にはカープが25年ぶりでリーグ優勝を果たし、日本シリーズも前日開幕したばかり。カープファンの熱狂さながらのにぎやかで楽しい講演会となりました。



縦横無尽のトークで聴衆を沸かせた達川氏



大勢のカープファンで盛り上がる講演。リーグ優勝を祝う「ビールかけTシャツ」で訪れた人も

世界のトップ選手と輝きたい！プロゴルファーの夢へ踏み出す

高校 普通科3年 金谷 拓実(昭和北中学校出身)

私がゴルフを始めたのは5歳のときです。両親が練習場に行くのに、一緒に連れて行ってもらったのがきっかけです。ボールが飛んでいくのが楽しくて、すぐゴルフが好きになりました。プロゴルファーを志すようになったのは、中学生のときにテレビで観戦したマスターズです。世界のトップ選手しか出場できない試合で、自分もこの舞台で戦いたいと思いました。

広島国際学院に進学し、たくさんのことを学ぶことが

金谷拓実さん 主な戦績

年	大会名	戦績
2010	中国小学校ゴルフ大会	優勝
2013	中国ジュニア選手権	優勝
2015	全国高等学校ゴルフ選手権大会春季大会	優勝
	中国アマチュアゴルフ選手権	優勝
	日本オープン ローアマチュア	11位
2016	全国高等学校ゴルフ選手権	春・夏連覇

できました。一番思い出に残っているのは、最後の夏の選手権です。団体戦では優勝を逃し、個人戦を迎えました。春に優勝して連覇がかかっていた。重圧があるなかで、自分のプレーができて春夏連覇することができました。私がここまで成長できたのは、切磋琢磨できる仲間、悩んだときにアドバイスしていただいた先生方、他にもたくさんの方々に支えていただいたおかげです。これからも夢に向かって頑張りますので、応援よろしくお願いいたします。



金谷さんの華麗なショット

入賞おめでとう！

岩手国体

10月1日から11日まで、第71回国民体育大会(希望郷いわて2016)が開催されました。本学院からも学生・生徒や教員が出場し、各競技で健闘しました。入賞者は次のとおりです。

競技名	種別	種目	氏名	学科・学年	戦績
自転車	少年男子	スクラッチ	中村 圭佑	普通科3年	第8位
ゴルフ	少年男子	団体・個人	吉田 好輝	普通科2年	団体3位
			関藤 侑嗣	普通科2年	団体3位・個人6位入賞
レスリング	少年男子	グレコローマン84kg級	向井 識起	普通科2年	第2位
ボウリング	成年男子	団体(4人チーム)	星川 創	現代社会学科2年	第2位

硬式野球部 3年間の思い

高校 総合学科3年 垣原 好佑(中広中学校出身)

「どうしても野球がしたい」僕はそんな思いで本校に入学し、硬式野球部への入部を決めました。しかし、高校生活は大きな怪我との戦いでした。

中学2年のとき、股関節を痛め大腿骨・骨端症と診断。手術をすれば1年で回復できると診断され、3年の時に手術を行いました。しかし手術の経過がよくなく、高校1年で2度目の手術を行いました。グラウンドで飛び跳ねる選手を横目に、悔しさとやりきれなさでいっぱいでした。高校生活の自分は、松葉杖の生活。全力で走りたい。体育の授業を受けたい。いろんな葛藤のなか、クラスメートの日々の優しさや野球部仲間からの言葉に勇気づけられました。「椅子に座ったままでもいいからキャッチボールしてくれないか」「椅子に座ってノック打ってくれないか」。なんでもないクラス・クラブでのキャッチボールの会話が本当にうれしかったです。また、自分の立ち位置がわかり感謝しています。

自分を支えてくれた方々に恩返しをしたいと考え始

めたとき、チャンスがきました。試合前のノッカー。3年最後の夏予選のグラウンドに立つ。メンバーに入りたくても入れ

ず悔しい思いも持つ選手がいるなか、自分がそのグラウンドに立つ意味。その意味を考えれば、不安・怖さ・緊張に押しつぶされそうになりました。試合前の短いノックかもしれないが、選手にとっては大切な一球。そのために、ノックで手の皮がボロボロになるまで練習した日々を思い出します。ノッカー本一本が体にしびれた感触は、一生忘れることができないでしょう。

高校生活を今振り返り、感謝の言葉しかありません。自分の夢として、将来は教職の立場で指導者として恩返しをしたいです。大学で勉強するとともに、硬式野球部の学生コーチとして経験を積み、社会に求められる人間になりたいと思います。



引退試合の垣原さん

学生の地域貢献活動

ドラゴンフライズと広島市西区との産官学連携 —JR新井口駅前のパネル2枚をデザイン—



完成したパネルとデザイン担当の学生

市西区との産官学連携としてJR新井口駅からアルパークにかけての長い

Bリーグが発足し、プロバスケットボールへの注目が集まっています。広島のBリーグ球団「ドラゴンフライズ」と広島

通路に掲示する選手の大型パネル2枚を情報デザイン学科の学生がデザイン制作しました。

「広島に、バスケットでつながる風景を」という言葉と「花」というテーマを合わせました。球団、区役所の関係者と何度も打ち合わせを重ねながら、学生たちは夏休み返上で取り組みました。躍動感のあるパネルや球団と街・市民とのつながりを感じるパネルが完成しました。

パネルは1年間掲示される予定です。お近くにお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

動画「西国街道」が最優秀賞 —海田町の魅力発信、本大学の学生広報スタッフが制作協力—



西田祐三海田町長から感謝状を授与された小川さん

の案内が最優秀賞を受賞しました。撮影には本大学情報デザイン学科

海田町の魅力を発信する動画コンテストにおいて、西国街道・海田市ガイドの会制作による「西国街道・海田市

の学生が協力し、1年間の撮影期間をかけ制作しました。制作リーダーである4年生の小川義弘さん（黒瀬高校出身）をはじめ、1年生から大学院生まで、企画から撮影・編集の全てにおいて授業で学んだ高度の技術や研究内容を披露できるとてもよい経験になったと思います。

西国街道ガイドの会の積極的なご協力と、海田町のご支援とをいただき取り組んだ本映像が、西国街道の知名度を高めることにより、町おこしに役立つことを願っています。

学生作品が Youth Life CM 大賞 2016 を受賞！

11月23日に広島市勤労青少年ホームが主催する映像コンペティションの公開審査会が広島駅南口地下広場で行われ、情報デザイン学科3年生8名で制作したCM作品が大賞を受賞しました。

募集テーマは「あなたの大切なひと・もの・こと」でした。小学生からの筆箱を社会人になっても大事に使い続ける大切さを時間と映像美で見事に表現しました。審査委員長からも「もの大切さについて改めて気づかされました」とコメントをいただきました。

本作品は12月17～25日まで、紙屋町本通り交差点大型ビジョン「NAVIA」で上映されました。



12月17日の放映後、上映されたCMと制作スタッフ（左から内藤さん、鹿島さん、倉見さん、野崎さん）

【制作スタッフ（敬称略）】

氏名	出身校（国）
鹿島 勇樹	市立広島工業高校
倉見 航平	呉宮原高校
才田 直人	私立高校
内藤 泰雅	安古市高校
野崎 寛人	高陽高校
山崎 由実	広島国際学院高校
井出 樹	東林館高校
ゲンタントウイ	（ベトナム）

		1月	2月	3月	4月	
※赤字は公開行事です 今後の主な行事予定	法人	26 教職員交流会				
	大学	10 授業開始	2 一般入試前期（～3）		2 特別研究成果報告会	5 入学宣誓式
			6 後期期末試験（～10）		3 教育シンポジウム	
			14 学内合同企業セミナー（～15）		10 一般入試後期	
			17 【情テ】卒業研究・卒業制作選抜展（～19 アステールプラザ市民ギャラリー）		19 卒業証書・学位記授与式	
			18 【現社】卒業論文発表会			
	短大	6 授業開始	2 推薦入試		19 卒業証書・学位記授与式	5 入学宣誓式
		12 合同企業研究会（～13）				
		24 後期期末試験（～26）				
	高校	7 始業式	3 推薦入試		1 卒業式	7 始業式
		25 【3年】卒業試験（～31）	14 一般入試（～15）			8 入学式

●この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

●高校生以上の方に図書館を開放しています。詳細は図書館までお問い合わせください。 TEL:082-820-2536

発行／学校法人 広島国際学院 法人本部
編集協力／学生広報スタッフ
住所：〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目20-1 電話：(082)820-2345